

52 米国及び英国に対する宣戦詔書渙発訓令

〔昭和十六年十二月〕

号	定決裁
月 日	文書課長
送 発	月 日
起 案 者	〔阿部〕

昭和十六年十二月七日起案

文書課長〔有光〕
秘書課長〔田中〕
次官〔菊池〕
大臣〔橋田〕
教学局長官〔藤野〕

(注記1)

案

文部省訓令第三十〔四〕〔一〕号

〔加筆〕北海道庁長官
〔抹消〕府県知事
直轄〔抹消〕各〕学校長

公私立大学、高等学校及専門学校長
〔抹消〕神仏各教宗派管長教団統理者

本日本米国並ニ英国ニ対シテ戦ヲ宣セラル〔辱クモ大詔ヲ渙発シテ国民ノ嚮フベキ所ヲ明示シ給フ〕洵ニ恐懼感激ニ堪ヘズ
惟フニ〔加筆〕今次征戦ハ〕皇国ノ隆替、東亞ノ興廢〔抹消〕ハ正ニ此ノ一挙ニ懸レリ今ヤ国家ノ総力ヲ挙ゲテ〔加筆〕ノ懸ル所〔抹消〕ナリ〕全国民ハ

(下 札)

愈々忠〔抹消〕勇〔加筆〕ノ精神ヲ励マシ〔加筆〕総力ヲ挙ゲテ〕奉公ノ〔誠〕〔入〕
悃ヲ効〔抹消〕シテ危局突破ニ邁進〕スベキノ秋〔抹消〕ナリ〕〔加筆〕ニシテ、国体
ノ本義〔抹消〕ヲ明ラカニシ〕ニ徹シテ国本ニ培フノ要極メテ切ナリ〕
事ニ教育ニ従事スル者ハ其ノ責務ノ極メテ重大ナルヲ念ヒ
〔抹消〕益々国体ノ本義ヲ明ニシ〕〔加筆〕思想ヲ純堅ニシ〕率先〔抹消〕奉公ノ誠ヲ
謁シ旺盛ナル精神ヲ以テ職務ニ当リ堅忍持久危局ノ突破ニ邁進
シ殊ニ〕〔加筆〕独行師表タルノ実ヲ挙ゲテ其任ヲ〔全フシテ〕謁スベ
ク〕〔抹消〕青少年〕学徒タル者ハ、光輝アル〔加筆〕皇国ノ歴史的使命〕大東
亞建設ノ〔抹消〕歴史的使命ニ〕〔加筆〕雄深ナル意義ニ〔抹消〕負荷ノ大任〕深ク思
ヲ致シ相共ニ〔抹消〕質実剛健ナル〕克ク身心ヲ錬磨〔シ〕、学業〔ノ〕
〔加筆〕研鑽〔ニ〕〔抹消〕シテ負荷ノ大任ヲ全ウスルニ〕〔抹消〕務〕〔加筆〕ムルト共
ニ、〔加筆〕質実剛健〕敏速果敢以テ〔軍〕国〔家〕ノ要請ニ応ヘ〔各〕其ノ
本分ヲ〔完ウセシメ〕〔加筆〕恪守セ〕ンコトヲ期スベシ
年 月 日

文部大臣 橋田邦彦

詔勅

天佑ヲ保有シ万世一系ノ皇祚ヲ踐メル大日本国皇帝ハ忠実勇武
ナル汝有衆ニ示ス
朕茲ニ露国ニ対シテ戦ヲ宣ス朕カ陸海軍ハ宜ク全力ヲ極メテ露
国ト交戦ノ事ニ従フヘク朕カ百僚有司ハ宜ク各々其ノ職務ニ率
ヒ其ノ権能ニ応シテ国家ノ目的ヲ達スルニ努力スヘシ凡ソ国際
条規ノ範圍ニ於テ一切ノ手段ヲ尽シ遺算ナカラムコトヲ期セヨ
惟フニ文明ヲ平和ニ求メ列国ト友誼ヲ篤クシテ以テ東洋ノ治安

ヲ永遠ニ維持シ各国ノ権利益ヲ損傷セスシテ永ク帝国ノ安全ヲ将来ニ保障スヘキ事態ヲ確立スルハ朕夙ニ以テ国交ノ要義ト為シ且暮敢テ違ハサラムコトヲ期ス朕カ有司モ亦能ク朕カ意ヲ体シテ事ニ從ヒ列国トノ關係年ヲ逐フテ益々親厚ニ赴クヲ見ル今不幸ニシテ露国ト覺端ヲ開クニ至ル豈朕カ志ナラムヤ

帝国ノ重ヲ韓国ノ保全ニ置クヤ一日ノ故ニ非ス是レ兩國累世ノ關係ニ因ルノミナラス韓国ノ存亡ハ實ニ帝国安危ノ繫ル所タレハナリ然ルニ露国ハ其ノ清国ト(加藤)明約及列国ニ対スル累次ノ宣言ニ拘ハラス依然滿洲ニ占拠シ益々其ノ地歩ヲ鞏固ニシテ終ニ之ヲ併呑セムトス若シ滿洲ニシテ露国ノ領有ニ帰セン乎韓国ノ保全ハ支持スルニ由ナク極東ノ平和亦素ヨリ望ムヘカラス故ニ朕ハ此ノ機ニ際シ切ニ妥協ニ由テ時局ヲ解決シ以テ平和ヲ恒久ニ維持セムコトヲ期シ有司ヲシテ露国ニ提議シ半歳ノ久シキニ互リテ屢次折衝ヲ重ネシメタルモ露国ハ一モ交譲ノ精神ヲ以テ之ヲ迎ヘス曠日弥久徒ニ時局ノ解決ヲ遷延セシメ陽ニ平和ヲ唱道シ陰ニ海陸ノ軍備ヲ増大シメ以テ我ヲ屈從セシメムトス凡ソ露国カ始ヨリ平和ヲ好愛スルノ誠意ナルモノ毫モ認ムルニ由ナシ露国ハ既ニ帝国ノ提議ヲ容レス韓国ノ安全ハ方ニ危急ニ瀕シ帝国ノ国利ハ將ニ侵迫セラレムトス事既ニ茲ニ至ル帝国カ平和ノ交渉ニ依リ求メムトシタル将来ノ保障ハ今日之ヲ旗鼓ノ間ニ求ムルノ外ナシ朕ハ汝有衆ノ忠実勇武ナルニ倚賴シ速ニ平和ヲ永遠ニ克復シ以テ帝国ノ光榮ヲ保全セシムコトヲ期ス

御名 御璽

明治三十七年二月十日

内閣総理大臣兼	伯爵 桂 太郎
海軍大臣	男爵 山本權兵衛
農商務大臣	男爵 清浦 奎吾
大蔵大臣	男爵 曾禰 荒助
外務大臣	男爵 小村壽太郎
陸軍大臣	寺内 正毅
司法大臣	波多野敬直
通信大臣	大浦 兼武
文部大臣	久保田 讓

文部省訓令第二号

今回露国ニ対シテ戦ヲ宣セラレタル趣旨ハ炳乎トシテ宣戦ノ詔勅ニ明ナリ此ノ時ニ当リテ国民挙テ忠勇ノ精神ヲ励マシ滿腔ノ熱誠ヲ捧ケテ陸海軍ノ後援ヲナスハ固ヨリ当然ノコトニ属ス而シテ国民カ戦ノ進行ニ懸念シ平素ノ業務ヲ顧ミルノ遑ナキニ至ルカ如キハ忠愛ノ至情ニ出ツルトスルモ決シテ嘉ミスヘキニアラス殊ニ教育ニ従事スル者ハ此ノ間ニ属シテ能ク平素ノ沈著ナル態度ヲ変スルコトナク熱心誠意益々其ノ職務ニ尽サンコトヲ務メサル可ラス思フニ今回ノ事変タル其ノ関スル所極メテ大ニシテ其ノ結果ハ速ク我国家ノ将来ニ及フヘシ是ヲ以テ教育者ハ能ク学生生徒ヲ訓誨シテ青年女子カ国家ニ負フ所ノ責任ハ将来益々重ヲ加フルニ至ルコトヲ知ラシメ他年此ノ重大ナル責任ヲ尽ス所以ハ修学時代ニ於テ専心一意心身ノ修養ヲ務ムルニアル

コトヲ体認セシムヘシ故ニ一勝一敗ノ報ニ接シテ常度ヲ失スルカ如キコトナク又他日戦捷ノ結果平和ヲ克復スルニ至ルモ国家ノ前途ハ益々多事ニシテ今日ノ学生生徒力成業ノ後国家ニ尽スコトノ愈々容易ナラサルヲ深く覺ラシムヘシ

今ヤ露国ト事ヲ構フルモ固ト是レ平和ヲ永遠ニ克復スルカ為メナレハ学生生徒力客氣ニ驅ラレ露国民ニ対シテ嘲罵ヲ逞クシ延キテ他ノ外国民ニマテ悪感ヲ懷カシムルカ如キコトナカラシムルハ子女ノ教育上最モ注意ヲ要スル所ナリ

我忠勇ナル陸海軍人カ国家ノ為メニ生還ヲ期セスシテ出征スルニ当リテハ满腔ノ同情ヲ表センカ為メ之ヲ送迎スルハ固ヨリ妨ケナキモ学生生徒ヲシテ課業ヲ廢シ貴重ナル時間ヲ費サシムルカ如キハ忠勇ナル軍人カ在学ノ子女ニ期待スル所ニアラサルヘキヲ以テ宜シク注意スヘキコトナリ学生生徒カ自ラ節約シ得タル所ノ資財ヲ献シテ軍費ノ一端ニ供セントスルハ忠愛至情ヨリ出ツルモノニシテ嘉ミスヘキコトナルノミナラス節儉ノ美風ヲ養フニ於テ益アリトス然レトモ献金ヲナサンカ為メニ特ニ父兄ニ要求スルカ如キコトアラハ教育ノ方面ヨリ見テ喜フヘキコトニアラサルノミナラス国家モ亦斯ル献金ヲ嘉納スヘキニアラス教育ノ任ニアルモノハ学生生徒ヲシテ能ク此ノ意ヲ体セシムヘキナリ

学校職員ニシテ召集ニ応スル場合ニハ其ノ同僚職員ハ進ンテ応召者ノ職務ヲ分担スヘク管理者ハ經費ノ許ス範囲内ニ於テ成ルヘク優待ヲナス等便宜ノ処分ヲ執ルヘキナリ
之ヲ要スルニ陸海ノ軍人カ死ヲ決シテ戦ヒ艱苦欠乏ヲ忍ヒテ国

家ニ報ユルノ精神ヲ移シテ以テ教育ニ従事スル者及ヒ教育ヲ受クル者ノ精神ト為サンコトハ本大臣ノ切ニ望ム所ナリ教育ノ任ニアル者ハ宜シク平時ニ於ケルヨリモ一層奮勵シテ職務ニ努力スヘシ是レ實ニ国家カ教育者ニ期待スル所ニシテ有事ノ時ニ於テ教育者カ国家ニ報スル所以ノ道モ亦之ニ外ナラサルナリ

明治三十七年二月十日

文部大臣 久保田讓

詔書

天佑ヲ保有シ万世一系ノ皇祚ヲ踐メル大日本国皇帝ハ忠実勇武ナル汝有衆ニ示ス

朕茲ニ独逸国ニ対シテ戦ヲ宣ス朕カ陸海軍ハ宜ク力ヲ極メテ戦鬪ノ事ニ従フヘク朕カ百僚有司ハ宜ク職務ニ率循シテ軍国ノ目的ヲ達スルニ勗ムヘシ凡ソ国際条規ノ範圍ニ於テ一切ノ手段ヲ尽シ必ス遺算ナカラムコトヲ期セヨ

朕ハ深ク現時欧州戦乱ノ殃禍ヲ憂ヒ専ラ局外中立ヲ恪守シ以テ東洋ノ平和ヲ保持スルヲ念トセリ此ノ時ニ方リ独逸国ノ行動ハ遂ニ朕(加筆)同盟国タル大不列颠国ヲシテ戦端ヲ開クノ已ムナキニ至ラシメ其ノ租借地タル膠州湾ニ於テモ亦日夜戦備ヲ修メ其ノ艦艇荐ニ東亜ノ海洋ニ出没シテ帝国及与国ノ通商貿易為ニ威圧ヲ受ケ極東ノ平和ハ正ニ危殆ニ瀕セリ是ニ於テ朕ノ政府ト大不列颠国皇帝陛下ノ政府トハ相互隔意ナキ協議ヲ遂ケ両国政府ハ同盟協約ノ予期セル全般ノ利益ヲ防護スルカ為ニ必要ナル措置ヲ執ルニ一致シタリ朕ハ此ノ目的ヲ達セムトスルニ当リ尚務メテ平和ノ手段ヲ悉サムコトヲ欲シ先ツ朕ノ政府ヲシテ誠意ヲ以

テ独逸帝国政府ニ勸告スル所アラシメタリ然レトモ所定ノ期日
 ニ及フモ朕ノ政府ハ終ニ其ノ応諾ノ回牒ヲ得ルニ至ラス
 朕皇祚ヲ踐テ未タ幾クナラス且今尚皇妣ノ喪ニ居レリ恒ニ平和
 ニ眷々タルヲ以テシテ而カモ竟ニ戦ヲ宣スルノ已ムヲ得サルニ
 至ル朕深ク之ヲ憾トス
 朕ハ汝有衆ノ忠実勇武ニ倚頼シ速ニ平和ヲ克復シ以テ帝国ノ光
 榮ヲ宣揚セムコトヲ期ス

御名 御璽

大正三年八月二十三日

内閣総理大臣兼 内務大臣	伯爵 大隈 重信
農商務大臣	子爵 大浦 兼武
外務大臣	男爵 加藤 高明
陸軍大臣	岡 市之助
海軍大臣	八代 六郎
大蔵大臣	若槻禮次郎
文部大臣	法学博士 一木喜徳郎
司法大臣	尾崎 行雄
逓信大臣	武富 時敏

文部省訓令第八号

本日独逸帝国ニ対シテ戦ヲ宣セラレタル趣旨ハ炳トシテ詔書ニ
 明ナリ今回ノ事タル其ノ関スル所極メテ大ニシテ国民ノ責任ハ
 将来一層ノ重キヲ加ヘントス事ニ教育ニ当ル者他年此ノ責任ヲ

負担スヘキ国民ハ即チ今日ノ青年子女ナルコトヲ思ヒ益々力ヲ
 教養ニ効シ以テ其ノ本分ヲ完ウセンコトヲ期スヘシ

国交既ニ絶エタリト雖其ノ臣民ニ対シテハ固ヨリ敵意アルヘキ
 ニアラス此ノ際学生生徒ヲシテ敵愾心ニ驅ラレテ交戦国民ニ対
 シ不穩当ノ言動ヲ敢テシ国民ノ品格ヲ傷クルカ如キコトナカラ
 シムヘシ

学校職員ニシテ召集ニ応シタル者アルトキハ務メテ優遇ノ途ヲ
 講シ又出征及応召軍人ノ子女ニ対シテハ其ノ修学ノ便宜ヲ図リ
 以テ忠勇ナル軍人ヲシテ後顧ノ憂ナカラシメンコトヲ期スヘシ

大正三年八月二十三日 文部大臣 法学博士 一木喜徳郎

官報 号外 昭和十六年十二月八日

詔書

天佑ヲ保有シ万世一系ノ皇祚ヲ踐メル大日本帝国天皇ハ昭ニ忠
 誠勇武ナル汝有衆ニ示ス

朕茲ニ米国及英国ニ対シテ戦ヲ宣ス朕カ陸海将兵ハ全力ヲ奮テ
 交戦ニ従事シ朕カ百僚有司ハ励精職務ヲ奉行シ朕カ衆庶ハ各々
 其ノ本分ヲ尽シ億兆一心国家ノ総力ヲ挙ケテ征戦ノ目的ヲ達成
 スルニ遺算ナカラムコトヲ期セヨ

抑々東亜ノ安定ヲ確保シ以テ世界ノ平和ニ寄与スルハ不顯ナル
 皇祚考丕承ナル皇考ノ作述セル遠猷ニシテ朕カ拳々措カサル所
 而シテ列国トノ交誼ヲ篤クシ万邦共榮ノ樂ヲ偕ニスルハ之亦帝
 国カ常ニ国交ノ要義ト為ス所ナリ今ヤ不幸ニシテ米英兩國ト釁
 端ヲ開クニ至ル洵ニ已ムヲ得サルモノアリ豈朕カ志ナラムヤ中

華民国政府曩ニ帝国ノ真意ヲ解セズ濫ニ事ヲ構ヘテ東亜ノ平和ヲ攪乱シ遂ニ帝国ヲシテ干戈ヲ執ルニ至ラシメ茲ニ四年有余ヲ経タリ幸ニ国民政府更新スルアリ帝国ハ之ト善隣ノ誼ヲ結ビ相提携スルニ至レルモ重慶ニ残存スル政權ハ米英ノ庇蔭ヲ恃ミテ兄弟尚未タ牆ニ相闘クラ悛メス米英兩國ハ残存政權ヲ支援シテ東亜ノ禍乱ヲ助長シ平和ノ美名ニ匿レテ東洋制覇ノ非望ヲ逞ウセムトス剩ヘ与国ヲ誘ヒ帝国ノ周辺ニ於テ武備ヲ増強シテ我ニ挑戦シ更ニ帝国ノ平和的通商ニ有ラユル妨害ヲ与ヘ遂ニ經濟斷交ヲ敢テシ帝国ノ生存ニ重大ナル脅威ヲ加フ朕ハ政府ヲシテ事態ヲ平和ノ裡ニ回復セシメムトシ隱忍久シキニ彌リタルモ彼ハ毫モ交譲ノ精神ナク徒ニ時局ノ解決ヲ遷延セシメテ此ノ間却ツテ益々經濟上軍事上ノ脅威ヲ増大シ以テ我ヲ屈從セシメムトス斯ノ如クニシテ推移セムカ東亜安定ニ関スル帝国積年ノ努力ハ悉ク水泡ニ帰シ帝国ノ存立亦正ニ危殆ニ瀕セリ事既ニ此ニ至ル帝国ハ今ヤ自存自衛ノ為蹶然起ツテ一切ノ障礙ヲ破碎スルノ外ナキナリ

皇祖皇宗ノ神靈上ニ在リ朕ハ汝有衆ノ忠誠勇武ニ信倚シ祖宗ノ遺業ヲ恢弘シ速ニ禍根ヲ芟除シテ東亜永遠ノ平和ヲ確立シ以テ帝国ノ光榮ヲ保全セムコトヲ期ス

御名 御璽

昭和十六年十二月八日

内閣総理大臣兼 東條 英機
 内務大臣陸軍大臣
 文部大臣 橋田 邦彦

国務大臣	鈴木 貞一
農林大臣兼	井野 碩哉
拓務大臣	小泉 親彦
厚生大臣	岩村 通世
司法大臣	嶋田繁太郎
海軍大臣	東郷 茂徳
外務大臣	寺島 健
逓信大臣	賀屋 興宣
大蔵大臣	岸 信介
商工大臣	八田 嘉明
鉄道大臣	

訓令案

本日本米国並ニ英国ニ対シテ戦ヲ宣セラル^(抹消)其ノ趣旨炳手トシテ詔書ニ明カナリ

帝国ハ曩ニ東亜ノ安定ヲ確保シ以テ世界ノ平和ニ寄与センガタ^(加筆)メ^(抹消)方^(抹消)法^(抹消)途ヲ尽シ^(抹消)努ムルコト^(抹消)已ニ^(抹消)アリ^(抹消)テ平和^(抹消)

東亜事態ノ^(抹消)真正ナル^(抹消)解決ヲ期^(加筆)スヘク努ムル^(抹消)

答ニ^(抹消)シタリ然ハ兩國ハ却テ^(抹消)ヲ誘引シテ帝国ノ四辺ニ武力ヲ増強シ帝国ノ存在ヲ危殆ナラシメ^(抹消)シ今日ニ至レルモ不幸ニシテ茲ニ米英兩國ト鬩端ヲ開クニ至ル

惟フニ^(加筆)帝国ノ隆替東亜ノ興廢ハ正ニ^(抹消)今後ノ征^(抹消)コノ一戦ニ懸^(抹消)レリ^(抹消)ル^(抹消)東亜安定ニ関スル帝国積年ノ努力ヲ完ウセザレバ帝国ノ存立亦危殆ニ瀕セン今ヤ国家ノ総力ヲ挙ゲ^(抹消)テ^(抹消)愈々^(抹消)忠勇ノ^(加筆)精神ヲ^(加筆)振^(抹消)励^(抹消)マ^(抹消)シ奉公ノ誠悃ヲ効スベキノ秋ナリ事

ニ教育ニ従事スルモノソノ責務ノ〔加筆・抹消殊ニ〕極メテ重大ナルヲ念ヒ
 率先奉公ノ誠ヲ竭シ旺盛ナル精神ヲ以テ職務ニツクシ堅忍持久
 〔加筆危局突破ニ邁進シ〕抹消国難ニ堪〔エ〕〔加筆殊ニ国民ノ後〔抹消類〕〕勁タル
 青少年学徒ノ〔加筆大東亜建設ノ歴史の使命ヲ体認シ其ノ〕抹消負荷益々
 重キニ願ミ相率キテ学業ニ専念シ〔抹消分〕各々ソノ分ニ応ジテ本分
 ヲ完ウセンコトヲ期スベシ

本日本米国並ニ英国ニ対シテ戦ヲ宣セラル〔抹消聖旨ヲ奉体シテ〕洵
 ニ恐懼感激ニ堪ヘズ

惟フニ皇国ノ隆替、東亜ノ興廢ハ正ニ此ノ一挙ニ懸レリ今ヤ国
 家ノ総力ヲ挙ゲテ愈々忠勇ノ精神ヲ励マシ奉公ノ誠悃ヲ効スベ
 キノ秋ナリ事ニ教育ニ従事スル者ハ其ノ責務ノ極メテ重大ナル
 ヲ念ヒ〔加筆益々〕抹消国体ノ本義ヲ明ニシ〕率先奉公ノ誠ヲ竭シ旺盛ナル
 精神ヲ以テ職務ニ当リ堅忍持久、危局ヲ突破シ邁進シ殊ニ青少
 年学徒タル者ハ光輝アル大東亜建設ノ歴史の使命ニ深ク思フ致
 シ相共ニ質実剛健克ク心身ノ鍊磨、学業ノ研鑽ニ務〔メ〕〔加筆ムル
 ト共ニ敏速果敢以テ国家ノ要請ニ応ヘ〕各其ノ本分ヲ完ウセシ
 メンコトヲ期スベシ

訓令第 号

本日本米国並ニ英国ニ対シテ戦ヲ宣セラル洵ニ恐懼ニ堪ヘズ

今ヤ未曾有ノ難局ニ直面シ国家ノ総力ヲ挙ゲテ忠勇ノ精神ヲ
 〔抹消〕加筆勵シ奉公ノ誠悃ヲ効スベキノ秋ナリ任ニ教育ニ在ル者其ノ
 責務ノ重大ナルヲ思ヒ益々国体ノ本義ヲ明ニシ誘掖薫陶之ニ

力メ以テ戦時下教育報國ノ実ヲ挙グルニ邁進シ学生生徒児童亦
 克ク冷靜沈着一意学徳ノ修練ト心身ノ鍛鍊トニ専念シ更ニマタ
 国家ノ急ニ応ズルノ決意ヲ堅持シ相率キテ〔加筆其ノ本分ヲ完ウシ〕
 聖旨ニ対ヘ奉ランコトヲ期スベシ
 年 月 日 文部大臣

努ムルト共ニ敢然〔加筆敏速果敢以テ〕国家ノ要請ニ応ヘ

次官〔有光〕 文書課長〔有光〕
 大臣〔橋田〕 秘書課長〔田中〕 事務官〔金丸〕

内閣閣甲第四六七号

昭和十六年十二月八日

内閣総理大臣 東條英機 印

文部大臣 橋田邦彦殿

通牒

本日本米国及英国ニ対スル宣戦ノ詔書渙発セラレ候ニ付テハ速ニ
 管下一般ニ伝達セラレ 聖旨奉戴ニ万遺憾ナキヲ期セラレ度

〔注記〕

〔四五〕〔簿冊内件名番号〕

〔下札〕

〔加筆種別〕い一ノ聯繫 〔加筆〕よ一ノ登録追加 / 件名 訓令第三十

一号 米国及英国ニ対スル宣戰詔書渙発ノ訓令ノ件ノ番号ノ結
了年月日 昭一六 一二八ノ保存年限 ムキノ枚数

〔自大正12年11月至昭和21年5月
帝至ニ関スル総規 第2冊〕文部
省⑤ 3A.30-5.1045